

復員廳第二復員局公報

第一三八號

昭和二十二年九月二日(火)

第二復員局文書課

○令 達

復二第六〇三號

本年八月三十一日現在阪神掃海部ニ勤務ノ者ハ特ニ發令セラレ
ルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒナイデ大阪地方復員局總務部ノ職員
ニ命課變更セラレタモノトスル。

昭和二十二年八月三十一日

復員廳 總裁

○通 牒

二復總第二四五號

昭和二十二年八月三十日

復員廳第二復員局總務部長

關係各廳長殿

船舶無線通信室内ノ整備ニ關スル件通知

首題ニ關シ別紙ノ通り東京遞信局長ヨリ通知ガアツカカラ了知
サレタイ。

(別紙) 船舶無線通信室内ノ整備ニ關スル件通知
波業第九五三〇號

昭和二十二年五月二十六日

復員廳第二復員局公報 第一三八號 昭和二十二年九月二日

復員局總裁殿

東京遞信局長

船舶無線通信室内ノ整備ニツイテ
船舶無線ノ検査狀況ニヨルト、通信室内ノ掲出事項不備ノモ
ノ、備付書類ノ完備セザルモノ、通信機上ノネームプレートノ
訂正ヲ怠ツテイルモノガ多ク見受けラレル。

コレラハ處置トシテ簡單ナタメ、カエツテ意ラレガチデア
ルガ、特ニ最近連合國軍カラ検査ヲ受ケ、右ノ整備ガナサレテ
ナイタメニ嚴重注意サレク船舶モアルカラ、コレラノ未措置ノ
向ハ左記各項ヲ御了知ノ上、貴所屬船舶無線ニツキ速カニ整備
セラレタイ。

ナホ、連合國軍ニヨル検査ハ、隨時隨所デ實施サレ、右ノ整
備方不完全ナモノハ、相當處置セラレルヤモ知レナイカラ、配
意方一段ノ留意アリタイ。

記

- 一 通信室内ニ掲出スベキモノ。
- (1) 連合國ノ「Radio Regulations」ノアル許可書。
- (2) 私設(官廳用)無線電信(無線電話)檢定證書又ハ假檢
定證書。
- (3) 施設目的。

二 備付書類

- (1) 無線電信無線電話検査簿。
 - (2) 船舶無線施設願書控（新設カラ工事設計變更ニイタルマデノ總テヲ云ウ）特ニ運用ニツイテノ指令書及ビ工事設計變更許可書ハソノ寫ヲ備付置クコト。
 - (3) 通信日誌。
 - (4) 無線通信士選任届控。
- 三 ネームプレートノ訂正
- 送信周波數ヲ變更シタリ、又ハ増設アルイハ不要ノモノヲ廢止シタ場合ニ實際發射可能ノモノト送信機上ノ周波數名トノ間ニ不一致ノモノガアリ、検査ノ際ニ過誤ヲ生ズル事ガ多ク、特ニ連合國軍ノ検査ニハ行速イガ發生シ易スイカラソノ差異ノアル場合ニハ必ラス訂正スルコト。

二復總第二四七號

昭和二十二年九月一日

復員廳第二復員局總務部長

關係各廳長殿

船舶氣象電報取扱規程一部改正ノ件通知

首題ニ關シ別紙ノ通中央氣象臺長ヨリ通知ガアツタカラ了知サレタシ。

(別紙)
氣豫發第九八號ノ二

昭和二十二年八月二十三日

中央氣象臺長

第二復員局長殿

船舶氣象電報取扱規程一部改正ニツイテ右ニツイテ左記ノ通り一部改正シテ來ル九月十五日〇〇時ヨリ實施スルカラ貴管下ノ向ヘモ御連絡ヲ願イスル。

記

船舶氣象電報取扱規程一部改正（昭和二十二年九月十五日）第四條ヲ次ノ通り改正スル。

前條中「ロ三電報式」ハ船舶氣象觀測報告規則第一條ニヨル觀測ヲ報ズル場合ニ之ヲ發シ「ロ一電報式」ハ同規則第二條ニ依ル觀測ヲ報ズル場合ニ之ヲ發スルモノトス。

〇 雜 款

〇 正誤

八月二十八日附復員廳第二復員局公報一三五號令達欄第一六七頁復二第五九五號第五條三號中「勤續期間ノ始期」ノ上ニ「昭和二十年十二月一日前ヨリ引續キ勤務スル者」ヲ脫ス。

0101

1019-2

復員廳第二復員局公報

第一三九號

第二復員局文書課

昭和二十二年九月五日(金)

○ 令 達

復二第六〇五號

元 驅逐艦 花 月

同 春 月

元 海防艦 神 津

元 第四十八號海防艦

元 第七十一號海防艦

元 第七十六號海防艦

元 第七十七號海防艦

元 第十三號輸送艦

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元 第一百二號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年八月二十八日

復員廳總裁

復二第六〇六號

元 海防艦 屋 代

元 第一百七號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元 驅逐艦 宵 月

右ヲ特別輸送艦トシテ吳地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元 海防艦 隠 岐

元 第一百四號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元 第四十號海防艦

元 第八十一號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年八月二十九日

復員廳總裁

○ 通 牒

二復總第二四六號

昭和二十二年九月一日

復員廳第二復員局總務部長

各 廳 長 殿

復員廳第二復員局公報 第一三九號 昭和二十二年九月五日

一七五

昭和二十二年臨時國勢調査實施ニ際シ人口分
布ノ激變防止方ノ件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノヨウニ依頼ガアツタカラ了知サレタイ。

(別紙)

局發第八三九號

昭和二十二年八月二十三日

總理廳統計局長 森田 優三

第二復員局長殿

昭和二十二年臨時國勢調査實施ニ際シ人口分
布ノ激變防止方依頼ノ件

來ル十月一日午前零時現在ニ依リ昭和二十二年臨時國勢調査ガ
行ソレルガ御承知ノコトト存ズルガ國勢調査ハ各人ヲ其ノ居住
スル世帯デ調査スルノデハナク十月一日午前零時ニ實際ニイタ
世帯(旅館等ノ準世帯ヲ含ム)デ調査スルイソユル現在地主義
ニヨル調査デアル、從ツテ調査ノ時期即チ九月三十日カラ十月
一日ニカケテ會合等アレバ其ノ土地デ調査ヲ受ケ其ノ結果異常
ノ人口分布ヲ示スコトトナルカヲ此ノ調査ノ時期前後ニ於テ大
規模ナ會合等調査ノ結果人口ガ一局地ニ異常ニ集中スルコトト
ナル様ナ各種ノ催シ物ヲ計畫スルコトハ極力避ケラレル様特ニ
御配慮ヲ煩シタクナオ關係ノ向ヘモ右ノ旨ヲ御達御願イ
スル。

尙本件ハ本年三月一日ノ閣議諒解事項デモアルノデ念ノ爲申
シ添エル。

二復總第二九一號

昭和二十二年九月四日

復員廳第二復員局總務部長

各地方復員局長殿

官公署窓口事務ノ改善ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シテ別紙ノ通り復員廳總裁官房長ヨリ通知ガアツ
タカラ實施方取計ハレタイ。

尙本件ニ關シ實行セル事項ノ報告ハ九月末日マデニ第二復員局
長ニ差シ出サレタイ。

(別紙)

復第六三號

官公署窓口事務ノ改善ニツイテ

復員官署一殿

昭和二十二年八月二十六日

復員廳總裁官房長

官界刷新方策ノ一トシテ、國民ニ直接奉仕スル行政御營ノ民
主化ト能率化ヲ促進スルタメ、別紙ノ通り「官公署窓口事務ノ
改善要綱」ガ決定サレタ。

各署ハ、直チニ本要綱ノ趣旨ヲ具現シ、特ニ復員事務ノ特性
ニ基キユノ上トモ左ノ件ノ徹底ヲ期セラレ度イ。

一 「全職員總テ窓口業務ニ任ジテイル」ノ氣持ヲ以テ事務處
理ニ當ルコト。

二 遺族、留守家族及ビ復員者ノ氣持ヲヨク察シテ、事務シ處

調節ノ方法(應援制度、互換制度、窓口増設等)ヲ常時組織的ニ整ヘテオキ、コノヨウナ事態ノ發生ニ對シテハ即時發動サセルコト。

5 窓口係員ノ訓練及考課方法ヲ特別ニ考慮スルコト。

6 窓口係員ノ執務心得ヲ作成シテコレヲ遵守サセルコト。

三 施設

窓口事務ヲ潤滑ニシ、利用者ノ利便ヲ増スタメニ、受付、案内係、相談所、揭示等ノ施設ヲ充分ニスルコト。

1 窓口ニハ必ず受付又ハ案内係ヲ設ケルコト。

(専任者ヲ置クカ或ル窓口係員ノ兼務ニスルカイザレニシテモ利用者方窓口ニ來テ迷ハヌヨウ、又アル種ノ用事ハソコデ足リルヨウニスル)。

2 利用者ノ問合せ等、相談等ノ特ニ多イ場合ナドニハ、相談所ヲ臨時又ハ常時特設スルコト。(新シイ税法ノ施行ノ場合等)。

3 案内揭示ヲ詳細完全充分ニスルコト。

4 必要ニ應ジテ自轉車ヲ携帶品等ヲ預ル方法ヲ講ズルコト。

5 窓口ヲデキル限り擴張スルコト。(狭スギル場合、窓口數ノ少ナスギル場合ニハ、分室、出張所等ヲ設ケテ利用者方近クデ利用デキルヨウニスルト共ニ、官公署ノ位置ハ利用者ノ利便ヲ本位ニシテソノ中心ニ置クベキ)。

デアリ、偏ヨツタコロニ在ルモノハソノ移轉シスル等)。

6 窓口ハデキル限り開放的ニシ、利用者ヨリ見渡シガキクヨウニスルコト。

7 待合室、腰掛ナド窓口ノ明期安易ナ気分ニ改造スルコト。(窓口ノサービス等ヲ利用者ノ首ニ達スルホド高イモノナドハ、適當ノ高サニ改造スル等)。

8 窓口事務所内ハ常に清掃美化スルコト。

第三 措置

本要綱ハ、ソノ忠實適應ヲ實行シ唯一ノ生命トスル。

各官公署ハ、本要綱ニモトツキ、直チニ自己ノ窓口ノ調査ヲ行イ、實態ニ應ジテ具體的改善實施案ヲ作成シ、改善事項毎ニ實施期日ヲ定メテ、實行可能ナモノカヲ速カニ實行セネバナラナイ。

コノ改善具體案ノ作成ニハ、窓口係員ヲ參畫サセルト共ニ、デキル限り、職員組合ノ代表者、利用者、公衆代表者等ノ意見ヲキクコトヲ必要デアル。

尙、本要綱ノ實施ヲ確保スルタメニハ、各廳ニ設置セラレル行政監察委員會ヲ活用シ、調査ト監督ノ行ウコトトスル。

理スルコト。

三 安否問合せ等ノ未回答ヲ、期間ヲ定メテ一掃スルコト。

四 遺骨ノ取扱ヲ特ニ丁寧迅速ニスルコト。

各署ハ、窓口事務ノ改善ニ關シ、本通知ニヨツテ特ニ實行セ
ル事項ヲ九月末日マデニ報告(通報)セラレ度イ。

官公署窓口事務ノ改善要綱

昭和二二、八、二三閣議決定

第一 方針

官公署ノ窓口ハ、官公吏ガソノ奉仕ヲ直接ニ行ウ最モ具體的
ナ現場デアリ、現在窓口事務ノ改善ハソノ民主化ト能率化ト徹
底ヲ重點トスル。具體的ニハ、利用者ノ不平ト接觸上ノ悪感情
ヲ一掃シテ、積極的ナ便益ト理解ト好感情ヲ築キアゲルヨウニ
事務ノ取扱方ヲ改善スルト共ニ、窓口係員ノ選定、配置、訓練
ヲ適切ニシテ、利用者トノ接觸ヲ円滑ニスルコトガ要點デア
ル。

第二 要領

一 執務態度、

「親切、簡易、迅速」ヲ窓口ノ三原則トスル。

(一) 親切

窓口係員ハ直接具體的ニ奉仕ニ當ルモノデアルカラ、特
ニ奉仕ノ觀念ヲ言葉ヤ態度等行爲ノ上ニ事實トシテ現ハ
サネバナラナイ。
心構ヘトシテハ常ニ「相手ノ氣持ニナツテ」事ニ當リ、

誰ニ對シテモ如何ナル場合ニモ禮義ヲ失セズ、親切、丁
寧デ明瞭快活ナ態度デノゾムコトガ必要デアル。

1 言葉使イヲ丁寧ニスルト共ニ、同種ノ事務ヲ繰返シ
大量ニ反復スルヨウナ窓口デハ應待用語ヤ言葉ヲ標準
化シテコレヲ勵行スルコト。(電話交換手、驛ヤ郵便局
ノ窓口等)

2 窓口係員ハ、ナルベク利用者ニ對シテ正面向ニ着席
シ、横向デ應待セヌコト。

3 利用者ガ窓口デ、トマドイシタリ、窓口ヲ探シテイ
ルナドノコトヲ傍觀シテイタリ、利用者カラ話出サナ
ケレバ知ラヌ顔ヲシテオルコトナク、スズンデ用シキ
キ進ンデ「サービス」ヲスルヨウニスルコト。

4 投書ヤ申告ニヨツテ、利用者ノ苦情ヤ献策ヲ積極的
ニ受ケルヨウニスルコト。(投書箱ハ毎日開キ、即座ニ
處理ヲスル。處理ハ公正且ツ虚心擔懷ニ行ヒ面目ナド
ニコダワツテハナラナイ。

處理ノ結果ハ凡テ公表スル。公表ハ窓口掲示ソノ他適
當ノ方法ニヨル。住所氏名ノアル投書ニ對シテハ公表
ト同ジ内容ノ回答ヲ出ス。

5 窓口係員ノ服装ニハ、デキル限り「名札」ヲツケ、
利用者ノ利用ト批判ニ便益ヲ供スルコト。
簡易
複雑ナ手續ヤ面倒ナ事務ヲデキル限り省略又ハ簡單ニ

復員廳第二復員局公報 第一三九號 昭和二十二年九月五日

一七七

シ、誰ニモワカカ易ク、且ツシヤスクスルコト。
 1 事務ノ内容ヲ再検討シテ、口頭受理デモ差支ヘナイモノハ、書類提出ヲ廢止スルコト。(戶籍抄本ハ一々請求書ヲ出サセナイデ口頭請求ヲ發行スルヨウニスル等)

2 諸願、届、請求書等ハ式紙ヲ印刷シテ利用者ニ提供スルコト。(印刷ニ要スル經費ヲ支出スル途ノナイ場合ニハ有償提供トシテ實行スル。書類ノ作成ハワカカ易イ雛形ヲ親切ナ指導ニヨツテ、誰ニモ容易ニ出來ルヨウニシテ代書店ノ必要ガナイヨウニスル。)

3 電話ニヨル處理ヲ積極的ニスルコト。
 電話ニハ事務練達者ガ應待シテ、即時ニ相手方ニ満足ヲ與ヘルコト。

4 郵便ニヨル處理ヲ積極的ニスルコト。
 利用者側ガ一々出頭シテテモ郵便デモガスムヨウニ、郵便ニヨル處理ヲ周知サセ又獎勵スル。ソレニハ式紙、手数料、返信料ナドヲ全國同一ニスル等ノ調整ヲセネバナラナイ。

5 窓口事務ノ極端ナ分業ハ、利用者ノ不便ニナルコトガアルカラ、コノヨウナ場合ハ内部ノ都合ヨリモ利用者ノ利便ヲ考エテ適當ニ改メタルコト。

(三) 迅速

1 緩慢ノ執務態度ヲ非能率的ナ事務處理方法ヲ改メ、

事務ノ處理ヲ迅速ニシテ、待ツ時間ヲ短縮スルコト。
 2 窓口事務ハ即決主義トシ、二度是ヲ廻バセナイヨウニスルコト。

3 處理ニ若干ノ時間ヲ要スル場合ニハ、一々ソノワケヲ知ラセテ漫然ト待タセナイヨウニスルコト共ニ、セスニヨツテハ受付ヲカラ出來上ルマデニ待ツコトヲ要スル標準時間ヲ揭示シテ周知サセルコト。(戶籍抄本ハ何分、印鑑證明ハ何分等)

4 窓口事務ハ、交替制度ノ合理化ニヨリ、貴食ソノ他休憩時間ハ原則トシテナイヨウニスルコト。

5 特ニ混雜スル日、時刻等ヲ揭示周知シテ、ナルベク閑ナ時ノ利用ヲススメルコト。

二 係員

窓口係員ノ選定訓練ヲ適切ニスルト共ニ窓口ノ整頓實態ニ適應スル人員ノ合理的配置ト機動的調節ヲ隨機敏捷ニ實行スルコト。

1 窓口係員ハ事務ニ精通シ、常識ニ富シテ同僚ナ人ヲ配スルコト。窓口係員ガ成績優秀ナ者ハ、表彰ノ途ヲ考慮スルコト。

2 窓口係員ガ缺勤ノ際、又ハ執務中離席スルナドノ場合ニハ、必ズ代務者ヲ定メテオクコト。

3 季節、日、時刻ニヨリ事務ノ著シイ増高ヲ來ス窓日ヤ、臨時ニ繁忙ヲ生ズル場合ハ、敏捷ニコレニ應ジウル増員

復員廳第二復員局公報

第一四〇號

第二復員局文書課

昭和二十二年九月十日(水)

○訓令

内閣訓令號外

各官廳

行政監察委員會ノ發足ニ當リ全官吏諸君ニ告
ゲル

敗戦日本ノ經濟危局ヲ突破シ、新日本ヲ建設スルタメ、國民
コソツテ困苦缺乏ニ耐エツツアラユル努力ヲ傾注シテ居ル重大
時局下、國民ノタメニ國策遂行ノ術ニ當ル官吏方、ソノ重責ノ
自覺ニ徹シ、從來ノイワユル官僚的觀念ヲ一掃シテ、新憲法ノ
精神ニ則リ、國民全體ノ奉仕者トシテ誠實且ツ公正ニ職務シ、
イヤシクモ官紀ヲ紊シテ、世ノ指彈ヲ受ケル様ナ言動ノ絶滅ヲ
期スルハ勿論ノコト、徹底シテ責任感ヲ以テ、能率的ナ行政ノ
運営ニ邁進シ、國民ノ信頼ヲ高メネバナラヌコトハ、今更多言
ヲ要シナイトコロデアアル。

政府ハ、官界ノ刷新ガ國策遂行上缺クコトノデキナイ要件タ
ルコトニ鑑ミ、官吏制度全般ニワタル根本的改革トシテ、國家
公務員法案ヲ立案シ、近クコレガ實現ヲ期シテキルガ、官界刷
新ガ一日モユルガセニデキナイコトニテラシ、先般官界刷新ノ
方策要綱ヲ決定シ、此ノ要綱ニ基イテ今回行政監察委員會ノ制

度ヲ實施スルコトニシタ。コノ委員會ハ、臨時且ツ短期ノ機關
デハアルガ、政府ハ官民合同ノ組織ニヨルコトノ制度ノ十分ナ活
動ニヨリ、コレヲ契機トシテ、官界ノ一新ヲ深ク期シテキルノ
デアアル。

固ヨリ、官界ノ刷新ハ、官吏各自方深クソノ職責ヲ自覺シ、
明朗且ツ積極的ナ活動ニ出デルカ否カニ繫ツテキルノデアツ
テ、此ノ行政監察委員會ノ制度モ委員會方徒ラニ官吏ノ非違ヤ
缺陷等ノ摘發ノミニ走ツテ、ソノ積極的活動ヲ萎縮サセルコト
ナク、各廳官吏ノ協力ノ下ニ、服務ノ改善ト事務能率ノ増進ニ
關シ、有效適切ナ具體策ノ發見ニ努メルコトヲ本旨トスルモノ
デアアル。

官吏諸君ハ、本制度ノ趣旨ヲヨク諒解シ、誠意ヲ以テコレガ
運営ニ協力セラレルト共ニ、職責ノ極メテ重イコトニ深く思フ
致シ、相携エテ官界刷新ノ成果ヲ收メ、祖國再建ニ盡力シ國民
ノ要望ニ答ヘラレンコトヲ望ム。

昭和二十二年九月一日

内閣總理大臣 片山 哲

○令 達

復員廳第二復員局公報 第一四〇號 昭和二十二年九月十日

一八一

復二第六一五號

S 第十九號

右ヲ特別輸送艦トシ佐世保地方復員局所管ト定メル。

佐世保地方復員局所管

右ヲ特別保管艦ニ指定スル。 S 第十九號

昭和二十二年九月五日

復員廳總裁

復二第六二三號

復員廳分課規程中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年九月十日

復員廳總裁

別紙第二ノ第二十八條表中央地方復員局ノ部掃海部ノ欄「大竹」ヲ削ル。

(參照 昭和二十一年六月二十日第二復員局公報)

復二第六二四號

昭和二十二年復二第三五六號復員廳地方復員局定員表中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年九月十日

復員廳總裁

吳地方復員局ノ部中大竹掃海部ノ項ヲ削リ計ノ項「二二〇」ヲ「一九一」、「三三二」ヲ「二四一」、「八四一」ヲ「七三三」

ニ改メ合計ノ項中「五二七」ヲ「五〇八」ニ、「二二三二」ヲ「二、一五〇」ニ、「三、八四四」ヲ「三、七三六」ニ改メル。

(參照 五月十六日第二復員局公報)

〇 雜 款

〇 殘務整理

特別保管艦第五群 (海第四九號、同三七號、同七一號、同七七號、同一〇五號、同一〇七號)

橫須賀地方復員局管船部内

第五群殘務整理班

〇 失官

復員事務官吉野捷三六本年八月十六日覺書該當者ニ指定セラレ昭和二十二年勅令第一號第三條ニ依リ九月六日失官シタ。

〇 正誤

八月二十八日附復員廳第三復員局公報第一三五號復二第五九五號第八條中「支給サレタ」ハ「支給サルベキ」ノ、本月五日第二復員局公報一七七頁下段十七行「凡テ」ハ「努メテ」ノ、同二十行「名札」ハ「番號札又ハ名札」ノ、一七八頁下段十行「原則トシテ」ハ「努メテ」ノ、同末行、一七九頁上段一行「増員調節ノ方法」ハ「ヨウナ態勢」ノ、同一、二行「當時組織的ニ整ヘテ」ハ「テラカシメ定メテ」シ、同四行「訓練及考課方法」ハ「訓練」ノ、同十行「必ズ」ハ「能ウル限カ」ヲ執モ誤

復員廳第二復員局公報

第一四一號

第二復員局文書課

昭和二十二年九月十二日(金)

○令 達

復二第六二八號

元第四十九號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年九月一日

復員廳總裁

復二第六二九號

元驅逐艦 夏 月

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年九月三日

復員廳總裁

復二第六三〇號

元第五百五十六號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年九月四日

復員廳總裁

復二第六三一號

元海防艦 倉 橋

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年九月四日

復員廳總裁

復二第六三二號

元第十二號海防艦

元第二十二號海防艦

元第二百十七號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年九月五日

復員廳總裁

復二第六三三號

元海防艦 羽 節

右ヲ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

復員廳第二復員局公報 第一四一號 昭和二十二年九月十二日

一八三

元第二十六號海防艦

右ノ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年九月六日

復員廳 總裁

復二第六三五號

管船規程中次ノヨウニ改正シ昭和二十二年十月一日カラコレヲ施行スル。

昭和二十二年九月十一日

復員廳 總裁

第二號表中管船部ノ出張所ノ欄「右卷、清水」ヲ削リ「松江、伏木、新潟」ヲ「七尾」ニ改メ管船部ノ出張所ノ欄ヲ削ル。
管船關係要員配員標準ヲ別紙ノヨウニ改メル。

(別紙添)

(參照) 二月七日、三月三十一日第二復員局公報

○通牒

第三番電 (昭和二十二年八月三十日發電濟)

發 經理部長

宛 各地方復員局經理部長、大湊管船部會計課長

共濟組合規則改正ノ件

共濟組合制度ニ關シ組合員ノ範圍、掛金率及ビ給付ノ内容等ニ

ツキ目下改正案進行中ナルモ何分ノ發令アルマデ現行通りト承知セラレタシ。

○雜款

○郵便物發送先

特別保管艦 初 梅 殘務整理班

同 樺 同

同 海一〇二號 同

東舞鶴市長濱 舞鶴管船部内

○事務所

八月三十一日閉鎖 阪神掃海部

九月一日開始 大阪地方復員局紀伊山良補給基地

和歌山縣日高郡山良村

(復二第六三五號別紙)

(昭和二十二年九月十二日復員廳第二復員局公報)

管船關係要員配員標準

管船區分	管船基地	管船部	管船班	管出船張部所	艦船乘員									陸上要員				合計	總計		
					特保及同(特)				行動不能艦艇				合計	二級	三級	雇傭員人	計				
					二級	三級	雇傭員人	計	二級	三級	雇傭員人	計									
第一區	橫須賀	橫須賀			栗橋特保	5	20	25	50	3	12	14	29	104	33	87	161	281	385		
					大湊						3	5	8	8	6	13	13	32	40	466	
							函館								5	15	21	41	41		
第二區	大阪		大阪							3	5	8	8	3	4	1	8	16	16		
第三區	吳	吳			特保(特)		15	10	25	3	15	17	35	60	7	28	66	101	161		
							高松				3	5	8	8	1			1	9	170	
第四區	佐世保	佐世保			特保	3	10	12	25	6	30	40	76	101	51	163	199	413	514		
							關門				3	12	15	30	30	1	2	1	4	34	572
							博多				1	6	4	11	11	1			1	12	
							鹿兒島				1	3	7	11	11	1			1	12	
第五區	舞鶴	舞鶴			特保(特)	3	10	12	25	2	10	12	24	59	14	40	70	124	183		
							七尾				3	4	7	7	1			1	8	191	
東京(管船課)														13	5	11	29	29	29		
合計						14	71	75	160	19	100	128	247	407	137	357	543	1,037	1,444	1,444	

1029

復員廳第二復員局公報

第一四二號

第二復員局文書課

昭和二十二年九月二十三日(火)

○令 達

復二第六五〇號

元第六十號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メクノヲ解ク。

昭和二十二年九月八日

復員廳總裁

復二第六五一號

元第五十四號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メクノヲ解ク。

ク。

元海防艦 奄 美

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メクノヲ解ク。

昭和二十二年九月十日

復員廳總裁

復二第六五二號

元第五十七號驅潛特務艇

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メクノヲ解ク。

元第二百十二號驅潛特務艇

右ヲ特別輸送艦トシテ吳地方復員局所管ト定メル。

吳地方復員局所管

特別輸送艦 驅潛特第二百十二號

右ヲ特別保管艦(特)ニ指定スル。

昭和二十二年九月十五日

復員廳總裁

○通 達

復二第六六二號

昭和二十二年九月二十日

復員廳第二復員局長

各地方復員局長殿

貿易再開。故國貯蓄運動ニ關スル件通牒

今般首題ニ關シ總理廳乙第八三號テ別紙ノヨウニ通牒ガノツク

ノテ部内勤務ホハコノ貯蓄運動ニ協力スルコトヲ可然指導サレク

イ。

(別紙)

總理廳乙第八三號

昭和二十二年九月三日

復員廳第二復員局公報 第一四二號 昭和二十二年九月二十三日

一八五

總理廳官房總務課長

復員廳官房長殿

貿易再開・救國貯蓄運動ニ關スル件

標記ノ件ニツイテ、別紙ノトオリ大藏省銀行局長カシテ依頼ガナツタノデヨロシク御配意願ヒタイ。

銀國第五三號

昭和二十二年八月二十九日

大藏省銀行局長 福田 赳夫

總理廳官房總務課長殿

貿易再開・救國貯蓄特別運動ニ關スル件

民間貿易モ再開セラレ、國內經濟ノ安定並ビニ國際信用ノ確立、而シテコレガ基礎トシテ通貨ノ安定、貯蓄ノ増強ハ、現下喫緊ノ要務トナツテ來タノデアルガ、然カモ我方國經濟財政金融ノ現狀ハ、前途必ズシモ樂觀ヲ許サザル實狀デアル。カカル情勢ニ對處シテ、去ル八月三十日衆議院ニオイテハ、救國貯蓄運動ノ推進浸透ニ今後更ニ數段ノ努力ヲ傾注スベキ決意ヲ表明セラレ、政府ハ又去ル八月十五日當面ノ金融對策ニ關スル件ノ閣議決定シ、諸般ノ財政金融政策ト併行シ、通貨ノ安定資金ノ蓄積ニ邁進スベキヲ決定シタノデアルガ、コレガタメ、ソノ一環トシテ今般別紙(一)要綱ニ則リ、「貿易再開・救國貯蓄特別運動」ヲ實施政スコトトナツタニツイテハ、我方國經濟ノ安定、再建ニ對シテ占メル本特別運動ノ重要點ニ鑑ミ、貴廳ニオカレテモ何分ノ御協力相成度ク右御依頼致シマス。

貿易再開・救國貯蓄特別運動要領

一、趣旨

貿易再開ヲ契機トシテ救國貯蓄運動ヲ徹底的ニ推進シ、貯蓄ノ氣風ヲ振興ス、圖ルト共ニ財政資金及ビ産業資金ヲ蓄積シ以ツテ健全財政ノ確立ト産業ノ再興トニ資シ延イテ我方國民經濟ヲ健全直シ國際信用ヲ回復スルコトヲ期スルモノトスル。

二、名稱、「貿易再開・救國貯蓄特別運動」

三、期間、九月一日ヨリ三十日マデ。

四、實施要領

(一) 運動方法

本年度貯蓄運動方針ニ則リ、本期間中ニコレガ集中的展開實施ヲ期スルモノトシ、特ニ左ノ諸事ニ重點ヲオク。

(イ) 貯蓄實踐模範地區ノ運營強化。

貯蓄實踐模範地區ニ對シテハ一切ノ運營方法並ニ凡ソル宣傳ヲ集中徹底的ニ展開實施スルト共ニ金融機關ノ資金吸收活動ヲモコレニ對シテハ特ニ積極的集中的ニ實行シ、コレガ運營ヲ強化スルコト。

(ロ) 國民貯蓄組合ノ結成促進

國民貯蓄組合關係法規ノ改正ヲ期トシ新國民貯蓄組合運營要綱ニ則リ國民貯蓄組合ノ結成ヲ促進スルト共ニ特ニ労働組合等ノ協力ヲ求メ、工場事業場、事務所等ニオイテ國民貯蓄組合ノ活用ニヨル源泉貯蓄ノ實施ニ努メルコト。

(ハ) 新生活運動ノ提揚
新生活運動ト相提携シ全國民ノ生活ノ科學化、消費ノ節約ヲ要請スルト共ニ勤勞精神ノ昂揚ヲ圖リ、生産消費兩面ヨリスル貯蓄源泉ノ培養ニ努メルコト

(ニ) 各種團體及教育機關ノ協力強化
青年團、婦人會、宗教團體等各種團體及教育機關ノ協力ヲ強化シ、コレヲ團體及教育機關ニヨル本運動ノ趣旨徹底貯蓄ノ實踐、特ニ國民貯蓄組合ノ結成促進ヲ圖ルコト、金融機關ノ積極的資金吸收活動ノ展開

(一) 金融機關ハ本期中ハ特ニ積極的ニ資金吸收活動ニ挺進シ増産資金ノ蓄積ノ達成ニ邁進スルモノトスルコト。

(イ) 第四回福德定期預金ノ完全消化
本運動期間中、金融機關ハ戶別訪問ニヨル預金ノ勧誘等積極的ニ資金吸收活動ニ凡ユル努力ヲ傾注スルモノトシ特ニ本特別運動期間中ニ實施サレル第四回福德定期預金ニツイテハ、コレガ完全消化ヲ目標トシテ格別ノ努力ヲ拂フコト。

(ロ) 農産物等ノ供出代金ノ振替拂制ノ實施及コレノ長期貯蓄化、麥、馬鈴薯、蕎麥各種農産物ノ供出代金ノ振替拂制ノ實施ノ勵行ヲ圖ルト共ニ第四回福德定期預金ノ活用等ニ依リ特ニコレガ長期貯蓄化ニ努メルコト。

尙水産物ノ供出代金ニツイテモ右ニ準ジ能フ限リコレガ貯蓄化ヲ圖ルコト。

(ハ) 懇切期間ノ實施
本特別運動期間中ハ金融機關ハ特ニサービスノ向上、事務能率ノ改善ニ努メルモノトシ、就中窓口事務ノ簡便、明朗化ヲ圖リ、預金者ノ便宜、貯蓄意欲ノ昂揚ヲ圖ルコト。

備考
右ニ關連シテ成績優秀ナ金融機關ノ店舗、職員ノ表彰、金融機關職員ノ激勵慰問大會ノ開催ヲ實施スルモノトスル。

(三) 證券業者ノ活用
緊要産業ニ對スル直接投資ニヨル資本形成ヲ強力ニ推奨シ證券業者ヲ通ジ、證券ノ形態ニオケル國民貯蓄ノ増加ヲ圖ル。

(四) 尙、此ノ際、新規預貯金ノ制度及ビ預貯金保險制度ヲ實施シ、預金ノ積極的吸収ニ資スルト共ニ預金者保護ニツキ萬全ノ措置ヲ講ズルコトヲ考慮スルモノトスル。

(五) 地方債ノ發行損金部地方資金ノ融通ニ關シテハ、當該地方ノ預金増加ノ実績ヲ勘案シテコレヲ決定シ、例ヘバ六三制實施ノ所要資金等緊要ナ資金ノ確保ニ遺憾ナカラシメルト共ニ、資金ノ地方還元ノ趣旨ヲ徹底スルモノトスル。

(六) 宣傳
本期中ハ運動ノ實施ト併行シ貿易再開ノ意義及ビ貿易再開ニ對處スベキ國內經濟態勢確立ノ緊要性ノ理解浸透、平

復員廳第二復員局公報 第一四二號 昭和二十二年九月二十三日

一八七

價切下ゲノデマ粉砕等ヲ主眼トシテ左ニ諸方法ニヨリ徹底
 的ニ宣傳ヲ展開スルモノトスル。
 (イ) 地方委員會大會、講演會、懇談會ノ開催。
 (ロ) 報道機關特ニ新聞、ラヂオノ協力要請。
 (ハ) 映畫、幻燈、スライド、紙芝居、レコードノ活用。
 (ニ) ボスター。壁新聞、立看板ノ掲示。
 (ホ) 「著貯時報」(特輯號)ノ發行。

二復總第三一二號

昭和二十二年九月二十二日

第二復員局總務部長

各廳長 殿

行政監察委員會發足ニ當リテノ内閣訓令ニ關
 スル件通知

首題ノ件ニツイテ別紙ノ通り復員廳總裁官房長ヨリ通知ガアツ
 タカラ了知サレタイ

(別紙)

復第七二號

復員官署 一般

行政監察委員會發足ニ當リテノ内閣訓令ニツ
 イテ

昭和二十二年九月二十二日

復員廳總裁官房長

今般行政監察委員會ノ發足ニ當リ特ニ内閣訓令(九月一日附
 官報號外所載)ガ發セラレタノデ、コノ趣旨ノ具現ニ努メラレ
 度ク命ニヨツテ通知スル。
 ナオ、復員廳ノ行政監察ニツイテハ、總理廳行政監察委員會
 ガコレヲ所掌スルコトニ決定サレテイル。
 (參照 九月十日第二復員局公報内閣訓令)

○雜款

○郵便物發送先

特別保管艦(竹、黃、響、夕風)

横須賀市田浦町長浦

横須賀地方復員局管船部内第三群殘務整理班

○事務所

九月十日閉鎖 大竹 掃海部

○殘務整理

九月十日開始 大竹掃海部殘務整理班
 九月三十日閉鎖 大竹掃海部殘務整理班

廣島縣佐伯郡大竹町字油見

(舊大竹掃海部定員宿舎)

閉鎖以後ノ連絡先 庶務課 吳試航基地
 物品 吳復理部